

会報

67号



函館の歴史的風土を守る会会報

No.67 H12. 9. 1

発行所 函館の歴史的風土を守る会

事務局 函館市五稜郭町43-9

五稜郭タワー株式会社（両角）

電話(0138) 5 1 - 4 7 8 5

印刷所 (有)三和印刷 電話 45-0845



定期総会 行われる！

平成12年度の定期総会は去る6月4日、35名が参集して、五稜郭タワーで開催された。

函館市の借り上げ市営住宅問題が浮上した時期でもあり、その対応についての意見や要望が活発に述べられた。

同時に歴風会の情報収集網の確立や、歴風文化賞のあり方等、会運営の根幹に迫まる意見も出され、各会員の関心の深さをうかがわせた。

議案は原案通り議決され、役員はそのまゝ留任となった。

総会終了後、本年度チャリティの実行委員長を務められた山崎文雄氏（財・函館市文化・スポーツ振興財団理事長）の記念講演「現代のパラダイム、ダーウィニズムを斬る」が行われ、軽妙な話術で魅了した。その後の懇親会には京都からの参会者も含め28名となった。

大森先生を悼む

「歴風会」の創立から極めて重要な活躍をされた大森好男先生（当時道立函館中部高校教諭）が、去る七月一日の早朝、勤務中の札幌市立清田高校の宿直室で他殺体で発見されたと言うショッキングな報道に、「まさか！」と絶句した会員も多かった。

利尻島への転出に際し、キッチンと整理された歴風会の資料を一括して会に寄贈され、それが10周年記念誌編纂に大いに役立った。

ライフワークの郷土史の掘り起しは、緻密な研究で定評があり、先生によって日の目をみた論文が多く発表されている。

在函中は勿論、利尻から札幌へと移られてもその研究は休むことなく継続され、その都度まとめられて上梓されている。

今年の賀状には『函中三代校長鈴木券太郎のことを何とかまとめて発表したいがなかなかすすまずあせっている』と認めてあった。その稿が完結したかどうかを確かめられないが、今となっては、あせっていたのは本当のようだったと同情の念、一入のものがある。

歴風会の10周年、20周年記念式典等に遠路必ず参加し旧交を暖められた。特に20周年には感無量であつたらしく、30周年にも是非出席したいと述べられていたことが忘れられない。

来たるべき30周年記念式典には先生の席を用意した



20周年式典に参加した大森先生（左端）

いと考えているのは私だけなのだろうか。

生前、再就職に何故夜警員を選ばれたかを聞いたところ、「自分の時間を多く持てるから」と即座に答えられたので感服した。しかし、もしも先生が他の職業につかれていたら、今頃、あの温厚な笑顔が消えてしまわなかったかもしれないと思うと残念でならない。

事件後約一と月が経ち、奇しくも初盆の八月十二日の早朝、容疑者逮捕が報道された。

先生はきっと多くのものを書き残したかったことを思うと、志半ばで逝去された御本人の無念さいばかりかと察するに余りある。

あらためて「惜しまれる人程、早死にする」「憎まれっ子世にはばかる」言えて妙な昔からの格言に思いを馳せ、衷心より御冥福をお祈りする。（文責 落合）

記念講演

現時代のパラダイム、ダーウィニズムを斬る

山崎文雄（北大名誉教授）

パラダイムとは米国の科学史研究者トーマス・クーンが1962年に発表した考え方で、思想家、研究者または一般の人も含めて、無意識の内に自らを規制している思想的な枠組み、または前提を意味しています。歴史をみると明らかに、その時代を特徴付けるパラダイムがみえて来ます。例えばギリシャ・ローマ時代はアリストテレスの自然学、プトレマイオスの天動説がパラダイムであり、中世はアリストテレスの自然学に神学を加えたスコラ哲学がパラダイムとして思考の枠組みとなり、教会はこのパラダイムを背景として権威を保っていました。

しかし近代科学の生みの親とも云えるコペルニクス、ケプラー、ガリレオ、ニュートン達は天体の観察から、運動の法則を生み出し、地動説を導いて、スコラ哲学

の一部を切り崩して、パラダイムの変更をもたらしました。パラダイムの変更をもたらす科学上の出来事をクーンは科学革命と呼んでいます。現時代のパラダイムは明らかにダーウィニズムです。この枠組みはダーウィンの進化論に基づいています。

ダーウィンの進化論は1859年に出版されましたが、これを買求めた人達の中には勿論生物学者もいましたが、多くは混乱した英国の社会に新しい秩序を求めている資本家、銀行家、弁護士、資産家等、当時の上層階級の人達と云われており、自然の中に生存競争、自然淘汰、弱肉強食を認めた進化論はこれらの人達の支持を得たのです。神の存在を認めずとも生物種の多様性を説明出来ることから神の否定につながり、教会の権威を大きく傷付ける結果となったのです。スコラ

側の人達は生きものは種毎に神が創造したもので、種は不変とし、これが時代のパラダイムとなっていました。ダーウィンの進化論は神による創造を否定し、スコラ哲学を根本から崩壊させたのです。パラダイムを変更させた進化論は正に科学革命を引き起し、人々の思考のよりどころを根本的に変えることになったのです。

現在日本では徹底した進化教育が行われています。自然は弱肉強食の世界で適応したもののみが生き残る。競争によって適者が選択され、弱者は淘汰される。神も仏も存在せず、頼れる者は自分と他にわずかに血のつながりのある縁者のみで、力で評価されると云います。これによって人は安息の心を失い、強者も時と共に弱者となり、喜びも瞬時で、不安が常につきまとうようになります。人心は疲れ、多くの自殺者を生み出します。人と動物は起源は同じで人命の尊厳には根拠がなく、倫理もなく、殺人は単に法律に違反する行為となってしまいます。神も仏も認めず、宗教は否定されながら、思考が中断して未熟なオカルト集団に救いを求める若者が続出します。ダーウィニズムは人の存在も含めて全てを大変分り良く説明する便利な考え方です。進化論は20世紀の社会を大いに活気付けて来ました。生物学の世界では機械論的に細胞の細部に亘り研究が進み、遺伝子研究はとどまるところを知らず

発展して来ました。しかし人の心の悩みの解決には何の役にも立っていないのです。

20世紀のパラダイムはダーウィニズムと云って間違いない、研究者の殆んどが無意識の内に考えの枠組みとしてこれを使っています。一般の人もこれに従い、強者になれと云われながら強者になれず、行先の見えない生活を強いられています。

21世紀も同じダーウィニズムをパラダイムとするのは問題が大きすぎます。子供達が救われません。ダーウィンやネオダーウィニストが云うように大進化が突然変異や子を残すための闘争によって生じたのか、36億年後に今のバクテリアがスポーツを愛し、芸術を愛する知的動物に変わり得る可能性が本当にあるのか。自らの目で観察し、考え直す必要があります。

自然は闘争で成り立っていません。明らかに共生を軸としています。子を残すために生きているのでもありません。他の生物を生かすために大部分の魚は子を残す前に食べられています。植物や魚、バクテリアがいなければ人は生きていけません。全ての生物に感謝する心が必要なのです。21世紀のパラダイムは一人一人が自然の中に隠れている慧知を探し出す努力の中にあると云えます。

● 雑

感

清水 源太郎

1、ダーウィニズムに疑問を持つ

最近の十六・十七・十八歳のいわゆる青少年犯罪の多発の中で、事件は事件として認識しながら、言い知れぬ不安と疑問が、自分の頭の中で処理がつかず、イライラしているのは私だけではないと思います。

その中で「歴風会・総会」での山崎先生の講演、まさにガンと頭を叩かれた思いで、いつのまにか疑いも抱かず、ダーウィンの進化論を信じ込み、「科学」と「哲学」を漠然と同一視している自分を知りました。

私自身戦時教育の中で、何の疑いも持たず「神国日本」を信じ込み、軍事独裁社会を容認してきた苦い経験を持ちながら・・・

日本人は単純で騙されやすい。

自己主張がなく、民主主義が定着しない。

他人の意見に盲従し、独裁者に弱い。

確かに現代の〇×教育が、思考によって正解を導き出すのではなく、正解を与えられることで、これを無批判に記憶することが、日本の現代教育パラダイムだと思っています。

地球歴の中の人類歴の浅さは、科学の「未進化」と云えなくもないと思いますが、少なくとも進化論に『疑い』を持つべきことを教えられました。

2、借り上げ住宅問題

確かに景気が悪い、北海道の中でも函館は最悪だと云う人もいます。

現実論で、だから公共・土建工事だと単純に主張する人がいます。

景気が回復し、人口が増えれば、住宅が増えますが、住宅を増やせば人口が増え、景気が良くなると云う市の行政側の理屈には付いて行けません。

土建行政の最大の『敵』は、自然環境保護団体と歴史学者や、遺跡保護者だと云う役人や工事関係者がいます。

戦後の日本の経済成長は、自然環境を無視し、歴史を破壊して達成してきた事実があります。

経済最優先が、水俣病や公害を生み出し、今地球環境さえ危険にさらしてきたことを反省し、現代パラダイムとして、自然環境と歴史と風土を守る、粘り強い運動がこれから始まるのだと位置づけたいと思います。

単に「住宅を建てる、建てさせない」と云った、行政批判や反対運動としないで、物と金の経済最優先社会からの脱皮を訴え続けることが、本来的な「歴風会」から社会への警鐘として、「生涯学習活動」であり使命だと考えています。

歴風見学会に参加して

大石圭一

つい先日の六月十七～十八日、『トマリン館』を見学すれば、費用が一万五百円で、函館・札幌間のバス旅行が可能だという。長い間、バスで札幌に行っていないし、暇でもあるし、途中何か変わったものがあるかもしれないし、出掛けてみることにした。

実際見学したのは、札幌市内の電化保温住宅、小樽のマイカル施設、宿泊は小樽のグリーン・ホテル、次に『トマリン館』、原発、風力発電等を見学してきた。

旅費の一万五百円は宿泊費の一部だろうか。他の不足分は何で補うのだろうか。

『トマリン館』を見学すれば、原発の安全性を確認できるのであろうか。

六月二十二日付の朝日新聞函館版に

「もうつくらない」

事故を機に脱原発

ドイツが全廃決定

の見出しと一緒に細かい記事が載っていた。

事故の説明として、

「ドイツの原発は、一九七〇年代に社会民主党（SPD）が加わった連立政権下で推進されたが、八六年のチェルノブイリ原発（ウクライナ）事故を機に見直された。八九年以降、新たな原発建設はなく、九〇年のドイツ統一前後には、旧ソ連製の原子炉を使っていた旧東独の六基すべての解体が決まった。

SPDは緩やかな脱原発へと方針を転換し、………」とあった。同記事には続けて

「……スウェーデンでは一九八〇年、原発の是非をめぐる国民投票が実施され、「原発は新設しない」ことなどを柱とする段階的廃止案が………国民投票前年の一九七九年、米国でスリーマイル島原発事故が起り、原発の安全性への不安が高まったからだ。……」

わが国でも事故があった。わが国では事故があるはずがない、と豪語していたのに。それなのに事故があった。それは大変と、事故隠しにとりかかり、それが失敗した。日本人がこんなにも嘘を付くのかと、情けなかったが、よほど苦しくて嘘を付かざるをえなかったのだらうと、同情した。

しかし、その後東海村で起きた事故は馬鹿らしくて、早く忘れてしまおうとした。事故者は死んだ、とのニュースだけが胸につきささっている。

わが国には資源が乏しいという。乏しいから致し方がないのであろうか。

これからドイツはどうするのだろうか、またスウェー

デンは。右顧左弁するだけだ。

昼飯のため岩内に休息した。

岩内は『アスパラ発祥の地』との記念碑もあるとのこと。記念碑建設者はアスパラ関係業者達である。岩内とは大火に見舞われた土地、また『生れいづる悩み』の木田金次郎画伯の居住地としても有名であるが、ニシン不漁対策を実施した町としても古くから有名であるが、町の中にもそれを記念する物はないようで、それを記念する物を欲しい。

ニシン不漁対策を実施した岩内町

一、江差追分の詞に（遠場所、近場所）

忍路高島およびもないがせめて歌棄磯谷まで
怨らみますぞえお神威様は なぜに女の脚とめる
小樽海路にお神威なくば 連れて行きたや奥地まで
主は遠場所 わしゃ近場所で 分れわかれの風が吹く
等がある。

お神威様は神威岬、近場所は歌棄・磯谷・岩内、遠場所は忍路・高島 である

地球温暖化でニシンは北へ、北へと遠ざかっていった。

二、そこで岩内では湾内のスケトウダラを捕りはじめた。

ニシンをスケトウダラに置換え、見事にニシン不漁対策を果たしたのである。

三、加工して北朝鮮にメンタイとしておくれた。
魚体と魚卵とを一緒にして『親子漬け』をうりだした。

四、スケトウダラ肝臓より肝油を作った。

肝油を製造したのは「下田喜久三博士」である。

五、「下田喜久三博士」はアスパラガスも我が国に導入した。

六、魚油の悪臭に包まれた肝油をビタミンA、D摂取のため、学校で強制的に投与された体験をもった人が日本にはまだ多くいる。

七、隣の余市町ではスケトウダラより『冷凍すりみ』が発明された。副産物のスケ子は福岡の『辛しめんたい』になったのに岩内町は手をこまねいていた。いくじなさを感じる。

八、「下田喜久三博士伝」があってもいい。

ビタミンA、D摂取のために肝油摂取体験保持者は多数いて、下田肝油に郷愁を覚える人は少ない。